

Contents

- 02 小津安二郎監督 生誕120年
- 04 ふるさと納税で快適別荘ライフ
- 06 ピックアップ情報
- 08 情報ネットワーク
- 12 文化&芸術
- 14 風水害から生命を守りましょう
- 15 休日当番医・市内医療機関

広報ちの夏のおたより号をご覧の皆さんへ
茅野市長からごあいさつ

コロナの感染症法上の位置づけが下がったことで、長かったトンネルの先によろやく光が見えてきました。この3年間で蓼科、白樺湖も様子が変わり、新たな魅力を発信しています。

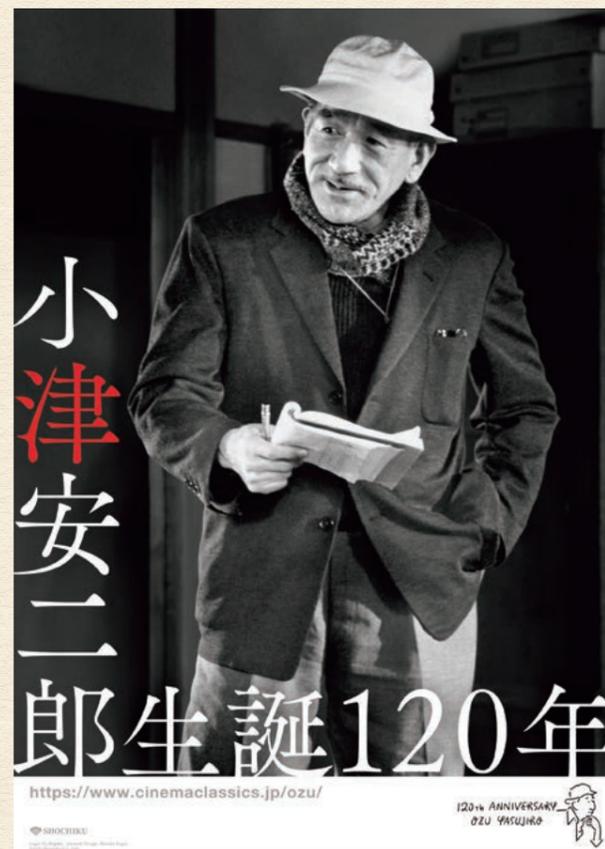
茅野市では、国内に5体ある国宝土偶のうち、「縄文のビーナス」「仮面の女神」の愛称で親しまれている2体を収蔵しています。方々から引き合いがあり、国宝土偶が出張していることもあります。悠久の時に思いを馳せに、尖石縄文考古館を訪れてみてはいかがでしょうか。

8月5日(土)には、市民祭の「茅野どんばん」が4年ぶりに開催されます。市役所周辺が「祭りの広場」となり、お神輿、長持ちが練り歩きます。夜には多くの踊り連が出て、辺りは一層賑やかになります。自由に参加できる飛び込み連もありますので、いっしょに踊ってみませんか。

この夏は、自然豊かな当市で過ごすにぎやかなひとときとともに、「茅野市の暮らし」についてもお考えいただければ幸いです。

茅野市長 今井 敦

小津安二郎監督 生誕百二十年



小津安二郎 生誕120年

<https://www.cinemaclassics.jp/ozu/>



©松竹株式会社



日本映画はもとより、世界的な映画監督として名高い小津安二郎監督は今年で生誕120年を迎えます。蓼科をこよなく愛し、蓼科の「無藝荘」で過ごした小津監督の生涯や無藝荘での暮らしなどをご紹介します。

小津安二郎監督経歴

1903年12月12日、東京市深川区に生まれる。父・寅之助と母・あさの三男二女の次男。深川明治小学校から父親の郷里・三重県松阪市の小学校に転校。三重県立第四中学校(現・宇治山田高校)に入学、14歳の時にトマス・インス監督の『シヴイリゼーション』を見て、監督になる決心をしたという。

松阪から30キロ山奥の宮前の小学校で代用教員となるが、やめて10年ぶりに東京に帰る。松竹キネマ蒲田撮影所の撮影助手として就職。その後、兵役につき除隊後の26年に助監督となり、27年『懺悔の刃』で監督デビューする。

小津の散歩道



小津監督と脚本家の野田氏が、蓼科生活の一番の楽しみとして、日に何度となく散歩した「小津の散歩道」はこちらからご覧ください。

生涯54本の映画を作り、日本映画史に燦然たる数々の名作を残した。

一生独身を通し、鎌倉に母と二人で暮らし、こよなく愛した母が62年2月4日、86歳で死去。小津自身も還暦を迎えた翌63年12月12日の誕生日に病気のため60歳でなくなった。

58年、紫綬褒章受章、62年、芸術院会員に選ばれ勲四等を受ける。

無藝荘



無藝荘

令和5年開館日/開館時間 10時~16時

7月 1(土)、2(日)、8(土)、9(日)、15(土)~17(日)、22(土)~31(日)

8月 全日開館

9月 1(金)~10(日)、16(土)~18(日)、23(土)~30(日)

10月 1(日)、6(金)~9(日)、13(金)~15(日)、20(金)~22(日)、27(金)~29(日)

11月 1(水)~5(日)

1954年、「東京物語」の公開を終えた小津監督は脚本家野田高梧に伴われ蓼科高原にある野田山荘「雲呼荘」を初めて訪れました。蓼科の自然、人情、美味しい酒がすっかり気に入って「東京暮色」以降、亡くなるまでに6本のシナリオを蓼科で書き上げました。1本のシナリオが完成するまでに日本の地元銘酒「ダイヤ菊」の空瓶が並んだ、というエピソードが残されています。小津は酒を愛し、訪れる人々を連れ立って疎林を散策するなど高原での生活を心から楽しみました。また、地元の人たちとも気さくな付き合いをしている様子が「蓼科日記」からも克明に読み取ることが出来ます。「雲呼荘」はすでに取り壊されてしまいました。しかし、小津が仕事場として使い、また東京などから訪れる映画関係者を接待する場所として使った、小津自ら命名した「無藝荘」は往時のまま林間にひっそりと残されています。

2003年、小津生誕百年の記念事業として地元ではこの山荘を保存することに、小津と野田の蓼科生活の中心地であったブルー平に移築して今日にいたっています。茅草の屋根、囲炉裏のある居間の風情、風呂場、かまど、手洗い場、などすべてがまったく当時のままです。

小津安二郎監督と無藝荘

第26回 小津安二郎記念 蓼科高原映画祭

問合せ
「小津安二郎記念・蓼科高原映画祭」実行委員会 事務局
観光課 観光係 ☎0266-72-2101(内線422・423)
E-mail kanko@city.chino.lg.jp



とき 9月23日(土・祝)~10月1日(日) (9日間)

ところ 新星劇場・茅野市民館



第26回小津安二郎記念・蓼科高原映画祭イベント「屋外映画上映会」

とき 8月25日(金)~26日(土)

ところ 道の駅ビーナスライン蓼科湖・公園エリア

蓼科湖畔の木々が立ち並ぶエリアで、シートを敷いたりイスに座ったりしながら、映画を楽しむ回を、「第26回小津安二郎記念・蓼科高原映画祭」のイベントとして開催します。

